

読書リレーをしよう

— 一年間の学習の成果を確認する —

教科書一年

好きな作品を選び、自ら取り組もう

(読・話・聞・書七)

少年の日の思い出 小説

ちよつと立ち止まって 説明文

【七時間配当】



— 基本的な考え方

● 学習のとらえ方

「好きな作品を選び、自ら取り組もう」は、一年間で培った力をもとに、生徒が主体的に取り組むための学習の場として位置づけられている。一年間のまとめの学習となるので、話す力・書く力など、今まで身につけてきた学習の成果を確認するとともに、次年度(二年生)に向けての課題が確認できるようプランを考えてみた。

活動の概要は、二つの学習材を読み、同じ作品・テーマを選んだ生徒集団をつくり(第一次)、共通テーマの本を持ち寄り、グループで一つのブックトークをつくりあげ(第二次)、学級内で学習の成果を発表し合う(第三次)というものである。

この学習でポイントとなるブックトークとは、あるテーマに沿ったさまざまな分野にわたる何冊かの本を、内容の説明を加えながら順序よく紹介し、本への興味・関心を喚起させるものである。グループによるリレー式のブックトークにしたのは、すでに学習した読書スピーチと、二年次のブックトークとの橋渡しとして学習を位置づけたためである。そのため、名称を「読書リレー」とした。

● この学習で身につけさせたい力

「本を語ることによって話し手の思いを語る」ブックトークでは、国語科における目標の一つである「伝え合う力」が重要な要素となる。したがって、特にこの学習で身につけたい力は、次のようなものになる。

- ・ 様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。(学習指導要領「第一年」目標(3))
- ・ 自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すこと。(学習指導要領A「話すこと・聞くこと」(1)イ)
- ・ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。(学習指導要領A「話すこと・聞くこと」(1)エ)

二 観点別評価の進め方

- 「おおむね満足できる」状況と判断するための視点
〔第一次〕学習材からテーマを設定することができたか。それぞれの学習材の内容から大きく逸脱していなければ「おおむね満足」とする。

〔第二次〕自分が設定したテーマをもとに本を探し、紹介し合えたか。伝える紹介する(内容がまとめられたか。

あまり質を問わず、テーマに沿った本を自分で探し出すことができれば「おおむね満足」とする。

〔第三次〕伝えたい内容をまとめ、発表することができたか。

第二次から第三次にかけては、この後のグループ内での話し合い(紹介し合い)を経て、自分の紹介する本やグループ内での共通材料、自分の思いなどをどのようにまとめているかを評価する。

- 「努力を要する」状況にある学習者への対応
〔第一次〕気に入った作品を選ぶよう助言する。

〔第二次〕グループ内の仲間どうしでお互いに苦手な部分を補い合ったり、教師がより具体的な視点を提示し、『TRCDジュニア』(図書館流通センター)や出版社のブックリストなどを参考に本を探させる。また、紹介文が書けない生徒には、「登場人物のキャラクター」「話のなかの出来事」など、ポイントを具体的に提示し、あらすじや感想だけの文章にならないような支援をする。

〔第三次〕口頭発表が苦手な生徒には、教師が事前に原稿を添削し、発表練習を十分に行うよう助言する。

三 指導と評価の計画例（七時間）

第三次 (第六時・七時)	第二次 (第三時～五時)	第一次 (第一時・二時)
発表し合い、一年間の振り返りをする。 ★評価：スピーチ、相互評価、自己評価	グループで決まったテーマに沿って、本を探す。それぞれが探してきた本についてグループ内で簡単に紹介し合い、本と本をつなぎ（紹介する順番を決め）ながら、お互いに内容を検討し合う。 での話し合いをもとに、自分の紹介文を書く。 ★評価：紹介文、相互評価、自己評価	二つの文章を読んで、内容をとらえる。 作品別にグループをつくり、「テーマ」について話し合う。

四 この学習のポイントとなるところ

●読書リレー（ブックトーク）の進め方

グループで話し合い、テーマを決める

『少年の日の思い出』『ちよつと立ち止まって』『のつち』どちらを出版本にするのかを選ぶ。そして、同じ作品を選んだ生徒どうしでグループをつくり、その内容から考えつくつかのテーマを出し合い、さらにその中から一つのテーマを選ぶ。

○テーマ…「友情いろいろ」

○ねらい…いろいろな友情を描いた本を紹介し、友達について考える。

○取り上げる本(書名・著者名)…『そこに僕はいた』辻仁成／『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』J・K・ローリング／『十五少年漂流記』ウェルヌ／『走れメロス』太宰治／『盲導犬クイーの一生』石黒謙吾



1 テーマの提示 (テーマについての簡単な紹介)
2 『そこに僕はいた』 みなさんも、「わたし」と「エーミール」のように、友達と気まづくなった経験があると思います。同じような話がここにもあります。(以下、あらすじの紹介や読み聞かせ、感想など、本の紹介をする。)
3 『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』 今度の本は、みなさんもよく知っている仲良し三人組の話です。この三人組の友情にもヒビが入りそうになります。(以下、映画のパンフレットを見せたり、前作の内容を織り交ぜて本の紹介をしたりする。)
気まづくなっても、ちゃんと元通りになれる、そんな友達関係はやはりいいですね。
★以下、順次、同じように展開していく

《発表原稿例》（グループ用）

テーマに基づいて本を探す

似たような内容のものばかりにならないように、テーマの話し合いのとき、グループ内である程度調整をしてもよいし、複数の本を持ち寄り、の話し合いで調整してもかまわないだろう。

グループで本を紹介し合い、発表する順番を決める
テーマ設定と紹介する本の選択ができたなら、その本をグループ内で簡単に紹介し合う。このとき、どのように紹介していくかを話し合ったり順序を決めたりする。内容も順序も単なる羅列にならないよう、中心となる本を決めたり、前の本とのつなぎ方に注意するなど工夫が大切である。

紹介文を書く

それぞれの本の紹介文を書く。生徒は第三単元の『わたしの一冊』を紹介しようで読書紹介スピーチの学習を経験しているので、比較的スムーズに原稿を書くことができるだろう。

学級でグループごとに発表し合う

時間的に余裕があれば、発表前に各グループでリハールを行うとよい。

最後に具体的な展開のイメージを紹介する。

○出版本…『少年の日の思い出』ヘッセ著

●一年間の学習の振り返り

好きな作品を選び、自ら取り組もう！学習の振り返り			
品名	著者	感想	評価
1. 『少年の日の思い出』ヘッセ著	ヘッセ	少年の日の思い出は、自分にとって大切な思い出です。	★
2. 『ちよつと立ち止まって』	...	...	...
3. 『のつち』	...	...	...
4. 『そこに僕はいた』	...	...	...
5. 『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』	...	...	...
6. 『十五少年漂流記』	...	...	...
7. 『走れメロス』	...	...	...
8. 『盲導犬クイーの一生』	...	...	...

《振り返りシートの例》

この学習は「内容・テーマをとらえる（読む）」「グループでテーマや本について話し合ったり紹介し合う（話す・聞く）」「紹介本の紹介文を書く（書く）」「学習の成果を伝え合う（話す・聞く・言語）」といった、一年間に学び、身につけてきた学習の成果を総合的に確認する場でもある。

学習の最後に振り返りを行うことによって、生徒一人一人が、自分自身の課題や目標を発見・自覚し、次年度からの授業に見通しをもって前向きに取り組むことができるよう工夫した。